

平成 29 年 4 月 3 日現在

機関番号：35404

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24530977

研究課題名(和文) コメニウス教育思想の再解釈に向けての基礎的研究

研究課題名(英文) Basic Study for the Reinterpretation of the Educational Thought of J. A. Comenius

研究代表者

相馬 伸一 (Sohma, Shinichi)

広島修道大学・人文学部・教授

研究者番号：90268657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：17世紀チェコの思想家ヨハネス・アモス・コメニウスは、教育ばかりではなく、文学・言語・政治・宗教にわたる足跡を残した。しかし、彼は、ヨーロッパやアメリカで国民教育制度が成立した19世紀後半以降、もっぱら教育家としてとらえられてきた。さらに、彼の思想は、第二次世界大戦後のイデオロギー対立のなかで、近代的なものであると解釈された。本研究は、20世紀末以降の国際的なコメニウス研究の動向を踏まえ、コメニウスのイメージのアップデートを試みた。研究成果は、『ヨハネス・コメニウス - 汎知学の光』(講談社選書メチエ、2017年)として、広く社会に発信される。

研究成果の概要(英文)：Czech thinker Johannes Amos Comenius left vast footsteps covering not only education but also literature, language, politics and religion. However, after the 19th century, when national education system was established in Europe and America, he was exclusively seen as an educationalist. Furthermore, during the Cold War in the 20th century, his thought was interpreted as modern. Based upon the international trend of Comenius study since the end of the 20th century, this study attempted to update the image of Comenius. The result is widely sent to the society as "Johannes Comenius: The Light of Pansophy" (Kodansha, Tokyo).

研究分野：教育哲学・教育思想史

キーワード：コメニウス パトチカ 教育思想史 近代批判 中央ヨーロッパ 思想史 教育哲学 開放性

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパ17世紀の思想家ヨハネス・アモス・コメニウス(1592~1670)は、ルネサンスに復興した新プラトン主義を系譜にあって、独自の哲学体系「パンソフィア(汎知学)」を構想し、教育ばかりではなく、文学・言語・政治・宗教にわたる足跡を残した。しかし、19世紀における民族主義の興隆とそれを支えた国民教育制度が確立されるなかで、彼はもっぱら教育家として知られるようになった。さらに、第二次世界大戦後のイデオロギー対立の中で、コメニウスの思想は近代的に解釈された。20世紀末、近代の見直しの中で、コメニウスは、冷戦期にまとわされた近代的なイメージの故に批判されるようになった。研究代表者は、「コメニウス教育思想の現代的展開に関する研究(課題番号:21530813、研究期間:2009~2011年)の採択を受けて研究を進める中で、コメニウスの思想の再解釈の可能性を追求する必要性を痛感し、本研究を進めることになった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、次の2点に集約される。
コメニウスの思想の解釈の歴史的過程を明らかにすること。
コメニウスの思想それ自体の再解釈の可能性を明らかにすること。

3. 研究の方法

上記の研究目的に則って、文献収集を行って読解を進めるとともに、国内外の専門諸学会で研究成果を発表することによって、内外の研究者と意見交換し、研究成果を論文・図書等によって発表した。

4. 研究成果

研究期間の前半においては、所属機関の学内行政に携わっていたが、与えられた研究機会を活かすために最大限の努力をした。さいわい、科学研究費研究・成果公開促進費の採択を受けることができ、コメニウスの思想の再解釈において、今日、無視することのできないチェコ20世紀の哲学者ヤン・パトチカによる主要なコメニウス研究の論考をドイツ語およびチェコ語から翻訳し、九州大学出版会から公刊す



ることができた。

本書は、「図書新聞」2015年1月号で紹介されたほか、教育哲学会、教育史学会でも紹介され、「これまでのコメニウス像を見直すもの」として高い評価を受けた。



チェコ共和国科学アカデミー哲学研究所にて
(中央右:研究代表者)

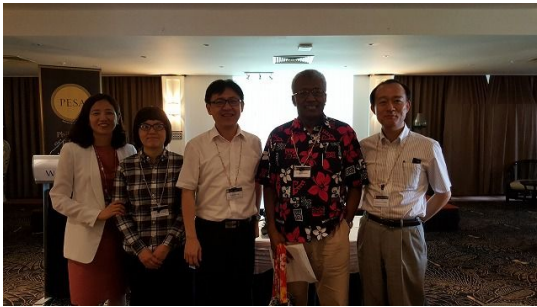
2014年夏から1年間は、所属機関の海外研修制度によって、チェコ共和国科学アカデミー哲学研究所で客員研究員として、本研究課題の遂行に全力を傾注した。その際、科研費の制度改革によって海外研修中における研究費の使用が容易になったことで、ロシア・サンクトペテルブルクやアメリカ・ニューヨークでの学会に出席し、研究発表し、世界各国の研究者と意見交換できるなど、大きく研究を進めることができた。ロシアでの研究発表は高い評価を得ることができ、専門誌に論文が掲載された。



サンクトペテルブルクで報告する研究代表者

また、前回の研究費の採択時に国際学会で発表した内容が、相次いで公刊された。

チェコ共和国での海外研修では、コメニウス思想の解釈の歴史について、当地の研究者との意見交換から考察を深めることができたが、帰国後は、教育哲学会の課題研究とラウンドテーブル、教育思想史学会コロキウム、オーストラレーシア教育哲学会一般発表で研究成果を報告することができ、内外の研究者から得たコメントで、さらに考察を深めることができた。



フィジーでのオーストラレーシア教育哲学会での発表を終えて（右端：研究代表者）

そうしたなかで、教育思想の歴史がいかに語られてきたかを思想史的に探求するという課題を中堅・若手の教育思想史研究者と共有するところとなり、科学研究費補助金・基盤研究（B）に申請したところ、平成 29 年度から 4 年間の補助金の交付が認められた。これは、研究が研究を生むという好循環のひとつの形ではないかと考える。

研究最終年度は研究成果を広く社会に発信することに取り組んだ。それは、科学研究費の意義ある活用がますます求められる昨今において不可欠であると信ずるからである。さいわい、教育分野に偏って受容されてきた日本の現状をとらえていた編集者の理解と支援によって、コメニウス思想の本格的な概説書を執筆することができるようになった。2016 年夏、チェコ共和国オロモウツに滞在し、当地の研究者との意見交換や文献の確認を進めつつ執筆し、帰国後、さらに推敲



を重ね、2017 年 4 月、集約的な研究成果として、『ヨハネス・コメニウス 汎知学の光』

（講談社選書メチエ）を出版することができた。本書は、コメニウスの幅広い思想をわが国で初めて本格的に扱っており、この出版によって、本研究が果たすべき責務に応えることができたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 14 件)

Shinichi Sohma, *The Possibility of Openness as a Shared Value of Contemporary Education*. in: *The Search for Harmony in the World of Chaos: Jan Amos Comenius and the Modern Philosophy of Education*, 査読有、Pedagogical Research Center after J. A. Comenius, Sankt Petersburg: Peterschule, 2016, pp.58-65.

相馬伸一、コメニウスとシュタイナーの間～教育思想史のオルタナティブのための覚え書き～、近代教育フォーラム（教育思想史学会）査読有、第 25 号、2016、pp.70-76.

相馬伸一、コメニウスとわれわれの間にあるもの、近代教育フォーラム（教育思想史学会）査読有、第 25 号、2016、pp.166-168.

相馬伸一、大学と教育と哲学、教育哲学研究（教育哲学会）査読有、第 113 号、2016、pp.30-36.

田端健人・相馬伸一・武内大・井谷信彦、光を教育哲学する プラトン、コメニウスからフランク、パトチカへ、教育哲学研究（教育哲学会）査読有、第 113 号、2016、pp.159-166.

Shinichi Sohma, *Various Aspects of Openness and Its Potential According to J. A. Comenius*. in: *Gewalt sei ferne den Dingen! Contemporary Perspectives on the Works of John Amos Comenius*, 査読有、Wiesbaden: Springer VS, 2016, pp.45-57.

相馬伸一、コメニウス研究史に関する議論、広島修大論集、査読無、第 56 巻第 1 号、pp.25-59.

相馬伸一、他なる景色に手を伸ばせ 旧市街より、教育哲学研究（教育哲学会）査読有、第 111 号、2015、pp.130-147.

相馬伸一、ヤン・パトチカのコメニウス批判？ オロモウツ講演（1967 年）とその前後、広島修大論集、査読無、第 55 巻第 2 号、2015、pp.17-52.

相馬伸一、教育学の方法論の歴史的再検討のために～コメニウス研究の視点から～、近代教育フォーラム（教育思想史学会）査読有、第 23 号、2014、pp.197-206.

相馬伸一、パトチカの最後のコメニウス論をめぐって チェコ語テキストとドイツ語テキストの間、広島修大論集、

査読無、第 54 巻第 1 号、2014、pp.67-92。
相馬伸一、コメニウスは大学の危機にどう向き合ったか？、近代教育フォーラム（教育思想史学会）、査読有、第 22 号、2013、p.177-188。

Shinichi Sohma, *Mutual Edification and Consultatio Catholica --The Public Sphere According to Komensky and His Colleagues.* in: *Studia Comeniana et historica*, 査読有、XXXII, č. 87-88, Uherký Brod Muzeum J. A. Komenského, 2012, pp.13-26。

相馬伸一、開かれた心の思想史的素描、広島修大論集、査読無、第 53 巻第 1 号、2012、pp.63-78。

〔学会発表〕(計 11 件)

Shinichi Sohma, *The Acceptance of Comenius to Modern Pedagogy of Japan*, オーストラレーシア教育哲学会 2016 年度大会、フィジー共和国：ウォリック・ホテル、2016 年 12 月 9 日～11 日。

Shinichi Sohma, *Re-imagining Higher Education through Jan Amos Comenius and its Contemporary Interpretation*, オーストラレーシア教育哲学会 2015 年度大会、オーストラリア連邦：オーストラリア・カトリック大学、2015 年 12 月 5 日～7 日。

相馬伸一、大学と教育と哲学～コメニウスとパトチカから考える～、教育哲学会第 58 回大会課題研究、奈良女子大学、2015 年 10 月 11 日。

田端健人・相馬伸一・武内大・井谷信彦、光を教育哲学する プラトン、コメニウスからフィンク、パトチカへ、教育哲学会第 58 回大会ラウンドテーブル、奈良女子大学、2015 年 10 月 11 日。

相馬伸一・下司晶他、教育思想史の裏面を問う 「古典」はどう読まれてこなかったのか、教育思想史学会第 25 回大会コロキウム、慶應義塾大学、2015 年 9 月 12 日。

Shinichi Sohma, *The Possibility of Open-mindedness as a Shared Value of Contemporary Education - Based on the Jan Patočka's Interpretation of Comenius--*, International Conference: John Amos Comenius and the Contemporary Philosophy of Education, ロシア連邦：サンクト・ペテルブルク、ペーターシューレ、2015 年 6 月 3 日～4 日。

Shinichi Sohma, *Peace and Education according to Arata Osada*, International Standing Conference for the History of Education, 英国：ロ

ンドン大学教育研究所、2014 年 7 月 23 日～26 日。

Shinichi Sohma, *Various Aspects of Openness and Its Possibility according to J. A. Comenius*, コメニウス研究国際会議、オランダ共和国：コメニウス博物館、2013 年 10 月 4 日～5 日。

Shinichi Sohma, *Power and Education according to J. A. Comenius*, International Standing Conference for the History of Education, ラトヴィア共和国：ラトヴィア大学、2013 年 8 月 21 日～23 日。

松浦良充、相馬伸一等、「大学の危機」を思想史が問う、教育思想史学会第 22 回大会シンポジウム、東京大学、2012 年 10 月 14 日。

Shinichi Sohma, *Various Aspects concerning Civility and Education in Seventeenth-Century Europe*, International Network of Philosophers of Education (INPE) 13th Biennial Conference, エチオピア：エジスアベバ大学、2012 年 8 月 17 日～18 日。

〔図書〕(計 4 件)

相馬伸一、ヨハネス・コメニウス 汎知学の光、講談社選書メチエ、2017、全 320 頁。

伊藤潔志編、相馬伸一等共著、哲学する教育原理、保育出版社、2017、pp.18-22（分担執筆）

相馬伸一・矢田部順二・宮坂和男、ヤン・パトチカのコメニウス研究 世界を教育の相のもとに、九州大学出版会、2014、全 268 頁。

新井保幸・上野耕三郎編、相馬伸一等共著、教育の思想と歴史、協同出版、2012、pp.31-48（分担執筆）

〔産業財産権〕

* 本研究は該当しない。
出願状況（計 0 件）
取得状況（計 0 件）

〔その他〕

* 特記事項なし

6. 研究組織

研究代表者

相馬 伸一 (SHINICHI SOHMA)

広島修道大学・人文学部・教授

研究者番号：90268657